

平成26年度  
女性のための防災・減災リーダー養成講座  
《実施報告書》

真如苑市民防災・減災活動公募助成事業  
平成26年9月27日(土)・28日(日)  
静岡県浜岡原子力広報研修センター2階

主催:特定非営利活動法人御前崎災害支援ネットワーク

- 後援：静岡県、御前崎市、島田市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、菊川市、牧之原市、吉田町、森町
- 協賛：(株)NTN御前崎製作所、(株)木村鋳造所御前崎工場、綜研化学(株)浜岡事業所、(株)日本特殊塗料静岡工場、エイケン工業(株)、広和工業(有)、(株)河原崎配管、(株)野川商店、タクミ建設(株)、(福)東海清風園、(福)灯光園、(株)清水工業、(株)トーブラ東海工場、NPO法人しおさい、(株)松本印刷

## 《平成26年度「女性のための防災・減災リーダー養成講座」報告書》

昨年に続き2回目となった養成講座ですが、今年は公開講座として一般の方にも聴講できる時間を設けました。参加者82名(男性15名)。西は名古屋市、東は長泉町、沼津市から宿泊してまで参加していただき本当に嬉しく思います。また、講師の皆さまには大変お忙しいところ快く講師をお引き受けいただき心より感謝申し上げます。

以下の通り受講生からのレポートの一部をご紹介します。報告書とさせていただきます。

### ★1日目 9月27日(土)

◇1時限目 AM9:10~10:30

#### \*「地域を知り、防災を考える-最近の豪雨災害・津波災害から学ぶこと-」

牛山素行氏(静岡大学防災総合センター副センター長 教授)

- 避難所に必ずしも行かなくてもよいこと。土砂災害を除き自宅で対応することがよい。ハザードマップで地域を把握する。
- 情報を聞き、状況を判断して避難することが大切。途中で命を落とす人もいる。
- 常に決められた避難所へ行くことが正しいとは限らない。最後の自らの判断で早めの行動をは心がけたい。
- 地域の特性を知ることの大切さを知りました。先生の話は分かりやすかったです。
- 関心が地震に偏っているが、実際水害は年に何度も起きているので勉強になった。



◇2時限目 AM10:40~12:00

#### \*「災害後の心のケア」

齊藤純子氏(静岡県教育センター 臨床心理士)



- 1年1回地区の自主防災では炊き出しが主な訓練で事後のケアは全くなし、このようなお話は聞くことがなく良かった。
- 災害を体験した人の心の動きが多少なりに解った。対処法は解ったが被災者の気持ちに入り込んで対処できるか自信がない。
- 女性のもつやさしさで少しでも心を病んでいる人たちの味方になれば良いと思う。
- 人様の落ち込んだ心を少しでも元気にさせてあげるにはそれなりの勉強をしなくてはなりませんね。
- 寄り添うということは災害時のみならず今のストレス社会でも十分役に立つ話でした。

◇3時限目 PM1:00~2:40

＊「避難所運営ゲーム(HUG)演習」 広畑大輝氏(静岡県西部危機管理局技師)



- ・即判断しなければならないことは大変困難な場合もあり重要であると感じた。
- ・初めてのことで戸惑いましたが、経験者がいてリードしてくれたので良かったです。難しかった。
- ・一つ一つの事例について考える時間が少なく何が正解なのか難しかった。実際はもっといろいろなことが起こり余裕がなく大変なのだと思います。

・初めて経験した。二重、三重の問題がある場合判断が遅くなることが難しい点でした。

◇4時限目 PM2:50~4:10

＊「図上訓練(DIG)演習」 小村隆史(常葉大学社会環境学部 准教授)

- ・目先のことばかりを思っていました。自分がどれだけ未熟かをした。自分は助かると思っていた、被害の規模を考えたら足がすくむ思いです。
- ・考えを根っこからひっくり返して対応を1から考える。なかなか衝撃的でした。動画で見ることによって納得することができた。
- ・自分の住む地域の世帯数とか危険と思われる家屋の把握などいかに自分がただ住んでいるだけの人間かということが分かり少しずつ変えていきたいと思う。



★2日目 9月28日(日)

◇1時限目 AM8:45~10:00

＊「静岡県第4次地震被害想定の説明」 油井里美氏(静岡県危機管理情報課 主幹)



- ・目前に迫る大地震を常に意識し備えることが重要だと思った。
- ・「今」自分にできること(食料備蓄、家具固定、地域住民連携等)をやっていきたい。
- ・複合災害、連続災害の対策を考えたい。
- ・御嶽山の突然の噴火があり、第4次被害想定についても正確な予想は困難であると感じた。
- ・過去の被災ケースを忘れがちになってい

ますが、地域や普段防災にかかわらない方々にお伝えする時も第4次被害想定を理解していただくことが大切だと思った。

◇2時限目 AM10:30~12:00 公開講座(御前崎市民会館)

＊「岩手県災害対策本部医療班の苦悩-東日本大震災から学ぶこと-」

秋富慎司氏(岩手医科大学 岩手県高度救命救急センター 助教)

- ・緊急時、救急時の混乱時に起こりうることなど具体的に聞いた。医師としてだけでなく人として必要なことも多く勉強になった。
- ・少しの思いのズレで治療が遅れたりしてしまうという話は悲しいことだと思った。
- ・どこの組織でも横との連携、全体コントロールが重要であり再認識した。
- ・行政、消防、警察、医療がうまく機能しないと進まないことがわかった。
- ・本当に困っている人は声が出せない。一人では何もできない、周りの人の協力が必要。



◇3時限目 PM1:20~2:40

＊「死者から見た防災対策」 西村明儒氏(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)



- ・「死体」はショッキングでした。でも耐震や家具の固定等大切な事を再確認できた。
- ・他の講習会ではなかなか聞けない内容で圧死と外傷性窒息死の違い、関連死の要因は地域特性を考え対策すると知った。
- ・住居の耐震が1番で家具の固定等「常に安全性を高める備えが命を守る」教訓を生かしていきたい。
- ・睡眠中の地震発生も考えられるので生存空間を如何に確保するかを考え実践したい。

◇4時限目 PM2:50~4:00

＊「現場に学ぶ、女性・多様な人々のニーズに伝える」

落合美恵子(NPO法人御前崎災害支援ネットワーク代表)

池田恵子氏(静岡大学教育学部)が急病のため変更しました。

- ・切実で身近な問題が次から次へと話され、改めて女性が元気でいなければいけないという思いを強くした。
- ・自主防災組織はまだまだ男性優位・目線の世界、具体的にどうすれば事例を挙げてよくわかった。
- ・実体験を通した女性の視点で大変有意義な内容だった。





#### ◁リーダー認定者＞(人数のみ掲載)

\*女性 60 名

\*男性 15 名 合計 75 名

#### (市町別)

\* 御前崎市(27名) \* 掛川市(10名)

\* 藤枝市(7名) \* 吉田町(6名)

\* 菊川市 (4名) \* 磐田市(4名)

\* 袋井市(3名) \* 浜松市中区(2名)

\* 浜松市天竜区(2名) \* 森町(1名)

\* 浜松市北区、浜北区(各1名) \* 静岡市葵区、駿河区(各1名) \* 焼津市(1名)

\* 牧之原市(1名) \* 沼津市(1名) \* 長泉町(1名) \* 名古屋市(1名)

#### ◇受講者アンケート(養成講座について)一部紹介

- ・初めて知ることばかりでとても勉強になったし、楽しかったです。私なんかでも地域の役に立つことができるんだと思うことができました。
- ・27日の講座は女性を特化した内容ではなかったが、「災害後の心のケア」とHUGでも女性中心の進め方ができて良かったと思う。28日の池田先生の話は聞けなくて残念でしたが、落合さんの代理の話を楽しく聞くことができ多少耳の痛い内容もあった。
- ・自分の地域を知り起こる可能性の高い災害イメージして減災に役立てたい。
- ・災害と言ってもいろんな面からの見方があるんだなと思った。
- ・男性も一緒に班でHUGやDIGを行ったが、協力し合っできた。最後の講義は男性にも聞いてもらいたい良い内容だったと思う。
- ・もう少し時間配分のゆとりが欲しかった。
- ・女性として行動、考え方、働き方について知る機会になり良かったです。
- ・考えられた内容、資金も相当投入されたと思われ簡単にはまねできないと感じた。1日目の2、3、4時限目は時間不足の感がありました。もう少し討議できる時間が欲しかった。3つの講義で準備不足との説明があった。多忙とは思いますが多すぎるのでは？
- ・たくさんの方が講座に参加すれば暗黙のうちに避難所運営もスムーズに行くのではないのでしょうか。いい勉強になりました。

★皆様からのご意見やお叱りは今後の「女性のための防災・減災リーダー養成講座」の実施に向け参考とさせていただきます。至らない部分も多くご迷惑をおかけした部分もございますが、これを糧に邁進してまいりますので何卒皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、後援、協賛いただきました皆様にも心より感謝申し上げますと共に今後とも何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。 ありがとうございます。

代表理事 落合美恵子